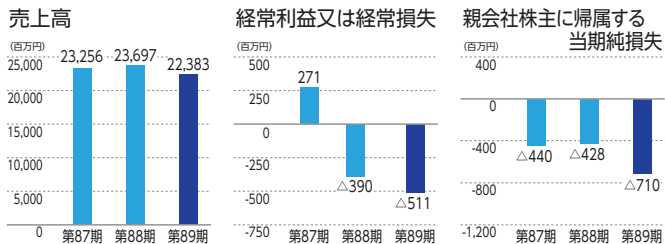


決算ハイライト



自動車部品事業

乗用車、トラック、建機の内外装部品を各メーカーに供給。シート、布、フィルム、塗装等の加飾技術による高付加価値製品の提供。開発・設計から量産までの一貫体制で対応。

売上高 12,037百万円

国内自動車部門におきましては、第4四半期に大手電炉鉄鋼メーカーの爆発事故の影響による大手自動車メーカーの操業停止による落ち込みが大きくなり、厳しい対応を余儀なくされましたが、中東向けの乗用車部品およびトラックが堅調に推移し、売上高は若干増加しました。



一方、海外自動車部門におきましては、タイでは経済の低迷が長引き既存車種の需要の低迷が続きましたが、モデルチェンジによる増産効果により、売上高は前連結会計年度と同等レベルとなりました。しかしながら、ECHO ADVANCED TECHNOLOGY INDONESIA社においては、前連結会計年度と比較して、12月に世界戦略車である新車種が立ち上ったものの、金型の売上が大幅に減少したため、売上高は減少しました。また、インドネシアルビアの更なる下落により、外貨借入金に対する大幅な為替評価損を計上しました。

住宅設備・冷機部品事業

キッチン、トイレ、バスなど水周りに活用される洗面化粧キャビネット、浴室キャビネット、洗濯機パン、浴室天井などの樹脂製品を供給。



OEM供給により国内シェアの過半数を確保。

売上高 9,339百万円

国内住宅設備部門におきましては、政府による各種住宅取得支援策の拡充が功を奏し、新設住宅着工戸数は前年度より1.9%増加し市場環境は改善しつつあります。このような状況のなか、新製品等の受注に鋭意努めた結果、売上高は増加しました。

また、海外冷機部品部門におきましては、THAI KODAMA社では需要が堅調に推移し、THAI KODAMA (VIETNAM) 社の冷蔵庫部品において堅調に推移しました。しかしながら、中国の無錫普拉那塑膠有限公司において農機等の減少により、売上高は減少しました。

エンターテインメント&物流資材事業

ゲーム用パッケージ、自動車部品用トレーなどの樹脂製品を供給。

売上高 1,006百万円

映像用ソフトパッケージの受注が堅調に推移したものの、ゲーム用ソフトパッケージおよび物流資材において受注が減少し、その結果売上高は減少しました。

会社概要・株式情報

会社概要		平成28年3月31日現在
商号	児玉化学工業株式会社	
(英文名)	KODAMA CHEMICAL INDUSTRY CO.,LTD.	
設立	昭和21年3月8日	
資本金	30億21百万円	
役員		平成28年6月28日現在

代表取締役社長	豊島 哲郎	取締役	中村 恒善
代表取締役	原 弘	取締役	横路 明夫
取締役	斉木 均	社外取締役	高橋 雅也
取締役	江頭 明彦	社外取締役	森本 雄二

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同連絡先	同上
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.kodama-chemical.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

株式に関するマイナンバー制度のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きが必要となります。このため、株主様からお取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

WEBサイトのご案内

当社ホームページでは、企業情報や最新のIR情報など、幅広い情報を提供しております。

<http://www.kodama-chemical.co.jp/>

児玉化学工業

検索



BUSINESS REPORT

第89期 ビジネスレポート

平成27年4月1日～平成28年3月31日



児玉化学工業株式会社

証券コード：4222

■ 社長インタビュー

○ごあいさつ

常に利益を出しうる
盤石の経営基盤づくりを進めます。

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

また、このたびの「熊本地方の地震」で被災されました方々に対し、心よりお見舞いを申し上げます。

ここに児玉化学工業株式会社第89期（平成27年4月1日～平成28年3月31日）の「ビジネスレポート」をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当社グループでは、中期経営計画「Echo Evolution 70」に基づきこの3年間に①ASEAN地域での事業拡大 ②事業構造改革の断行による収益力強化 ③グローバル運営体制の構築と人材育成を方針とした各種施策を進めてまいりました。

「Echo Evolution 70」の最終年となります当第89期は、当社グループの主要取引先である自動車業界では、国内では需要の回復基調にあるものの、本年3月に発生した大手電炉鉄鋼の爆発事故の影響を受け、国内自動車部品の製造ラインが全面停止する等厳しい対応を余儀なくされ、また、タイおよびインドネシアのASEAN地域の自動車部品事業では需要低迷の影響に加え、これまでグループ収益の柱であったタイでの世界戦略車のモデルチェンジへの対応があり、また、インドネシアでは年末にようやくタイ同様世界戦略車が本格量産として立ち上がったものの遅れと為替の評価損等の影響を受け、アセアン自動車部品事業は極めて厳しい状況で推移する結果となりました。

一方、住宅設備関連業界においては、新設住宅着工戸数が前年を上回り、新製品の上市や収益構造の改革効果により好調に推移し、更にASEAN地域では冷蔵庫の需要が堅調に推移するとともに、食品容器事業が本格化する等比較的好調に推移しました。

以上の結果、第89期決算はアセアン自動車事業の落ち込みによる影響を克服することができず厳しい内容となり、株主の皆様には、深くお詫び申し上げます。

このような状況を踏まえ、当社グループは新たに平成33年3月期を最終年とし、前半の3年間を前中計で投資し、現在、本格的量産が開始された大型案件での投資回収と収益力強化による財務体質の改善を柱とし、後半2年を次なる成長への展開と位置づけた5年間の新中期経営計画を策定するとともに、企業としての責任を果たすための安全操業の確保、コンプライアンスの遵守およびリスク管理の強化に取り組み、どのような経営環境であっても、利益を確保し得る経営基盤の確立を推し進め、より強固な体質づくりに傾注してまいります。



初年度の今期の業績見通しとしては、売上高240億円、営業利益4億円、経常利益2億円、親会社株主に帰属する当期純利益1億円を見込んでいます。

株主の皆様には、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

平成28年6月
代表取締役社長
豊島 哲郎

Q1 中国など新興市場減速の影響が心配です。最新の事業環境についてお聞かせください。

この数年、ASEAN諸国も中国企業と取引を拡大しており、中国経済の減速で、設備投資動向だけでなく、人々の購買意欲も慎重になっています。

当社はタイおよびインドネシアで、わが国の大手自動車メーカーが進める世界戦略車プロジェクトに深く関わっていますが、平成27年はタイとインドネシアで新車種が立ち上がったものの、タイでは半年、インドネシアでは1カ月の期間の量産分しか当期の業績に反映されていません。

タイでは政局不安が続いており、前政権で先食いした自動車ローンの問題もあって、自動車購入が伸びていません。一方、インドネシアはベトナム、フィリピンなどへの自動車輸出が始まりました。平成28年は本格的な稼働となりますので、おおいに期待しています。

Q2 当期は中期経営計画「Echo Evolution 70」の最終年でもありました。不満が残る結果ではありませんか？

①ASEAN地域の事業拡大②事業構造改革の断行による収益力強化③グローバル運営体制の構築と人材育成に取り組みました。

1つめのASEAN地域の事業拡大は、さまざまな手を打ちましたが、環境変化で目論見通りに進まなかったことに加え、為替の影響も加わりました。実は現地通貨ベースでは、売上は持ち直しつつあるのですが、インドネシアルピアで調達した現地工場の運転資金が、大幅な下落で外貨借入金の為替評価損を計上せざるを得なくなりました。

2つめの事業構造改革では、在庫管理や素材管理に力を注ぎ、不採算事業の改善に努め、製品の品質とコストセーブにつなげました。住宅設備では効果も生まれています。

3つめのグローバル運営体制の構築と人材育成については、現地人に登用の道筋をつけると同時に、国内の中堅幹部クラスに海外経験を積ませています。海外展開は、新たなステージに向かいつつあると考えています。

Q3 本年から「中期経営計画（5ヵ年）」もスタートいたします。

前半の3ヵ年は「収益拡大による財務基盤の強化を行う収穫期と次なる成長への種まき時期」。後半の2ヵ年は「次なる成長



の展開時期」と位置づけています。

本来であれば世界戦略車プロジェクトが本格的に立ち上がり、高稼働安定生産で収益の確保を達成していたはずですが、残念ながら遅れが生じており、ようやく現時点で高稼働にまできました。1日も早く事業をフルにまわして投資分の回収を図り、次の種まきに活かそうと考えています。自動車以外では、冷機成形品事業や食品容器事業の拡大に期待しています。

Q4 ものづくり構造改革による収益力の強化にも期待が寄せられていますか？

ものづくりの仕組みを変えるだけで、生産性が高まり、収益力も大きく向上します。成形、組立、塗装など工程の自動化と省人化を進めつつ、材料技術を駆使して新材料の展開を進めます。また、検査の自動化に加え、品質管理体制を大幅に見直します。私が狙っているのは、製品の歩留まりを良くするというレベルではなく、不良品そのものを出さない直行率の向上です。

当社の強みである真空成形／プレス成形を活かしたガラス繊維マットプレス工法による自動車部品金属代替への展開、三次元加飾工法による高品位加飾分野への展開など高付加価値な製品体系への転換もそれぞれ採用が決まり始めましたので、収益力は更に向上します。

Q5 平成28年3月8日には創立70周年の節目の年を迎えました。今の率直な思いをお聞かせください。

“よくぞ70年”というのが今の率直な思いです。先人たちが築いた当社の強みは「プラスチック加工と真空成形」にあります。この強みを時代の大きな流れに沿って、更に強化し伸ばしていくことが、私に課せられた使命です。私どもの本業であるモノづくり部分だけを見ると、この1年は着実に成果を積み重ねていると自負しています。

株主の皆様には今しばらく見守っていただければと、心よりお願い申し上げます。